教育ニュース「協働 共豊」 №16

今週の児童川柳　「寒うてのぉ　手がこごえんで　凍りそう」（５年生）

平成 22 年 11 月８日　　広島市立吉島小学校

「じっくり読めば、心が豊かに」、「１日１５分の読書をお家の人と楽しもう」これは、本県の読書推進の標語です。秋涼のなかではありますが、読書の醍醐味を子どもたちにもたっぷりと味わってほしいと思います。本校では、国民読書年に、読書活動の推進に力を注いでいます。

図書室の本の貸し出し状況は、次のとおりです。

10月25日　10月29日調べ（学年全体での割合91%）

１年生	５２人（99%）	２年生	４７人（99%）
３年生	４４人（99%）	４年生	４６人（94%）
５年生	５０人（92%）	６年生	４３人（98%）

いずれの学年とも 90 %を超え、その割合は月をおうごとに増加傾向にあります。一方で、本の選択志向には偏りがあり、幅広い本と接することが必要のようです。

そこで、児童が動く先生たちが動く。～読書離れからの脱脚です～

図書委員会の子どもたちは、図書室に配架された本の傍らに、本の内容を紹介した「おすすめの本」を置き、幅広い本の読書を奨励しています。右写真にみられるように、この紹介文によって本が借り出されています。

加えて、授業では、国語科の学習と関連をもたせ、例えば、６年生の廊下には、『どっどどどうど雨ﾆﾓﾏｹｽﾞ』『よだかの星』『やまなし』など宮澤賢治の作品が配架され、読書環境が整えられています。

５年生は、お気に入りの伝記本を時間をかけ読破し、その感想をまとめようとしています。感想文のﾌｧｲﾙの表紙には、「日本の海と人々を助けようとした前向きな人」「戦国時代に平和を願う人」「ﾏﾝｶﾞに一生をささげた人」「見えない敵とたたかう人」「日本の文化に灯をともした人」など児童が内容をﾀｲﾄﾙ化したものが、既に書かれています。子どもたちが、どんな偉人をまとめようとしているのかお分かりでしょうか。読書成果がどのような形になるのか楽しみです。

“めざせ ﾉｰﾄ達人”に掲げられたﾉｰﾄを読み、「う～なるほど なるほど」

２年生の教室廊下の掲示板に、“めざせﾉｰﾄ達人”のｺｰﾅｰが。「ﾊﾟｯと分かりやすく読んでよい気持ちになるﾉｰﾄにしましょう」とﾉｰﾄづくりにかかわる先生の言葉が添えられています。掲示板には、達人になるための参考となるﾉｰﾄが掲示され、その中には、「ふしぎ、ｲﾗｲﾗなどいろんな気持ちがまじってるよく考えまとめられたﾉｰﾄですね」など一つ一つの内容に先生からのﾒｯｾｰｼﾞがﾉｰﾄに加えられていました。

感じたり考えたりしたことを書きまとめる、それを相手に発信するためのﾉｰﾄづくり、自由学習帳などのﾉｰﾄづくりに本校では、今後一層取り組んでまいります。まとめられたﾉｰﾄ綴りは、子どもたちにとって、学習履歴であり、努力してきた自分自身を再確認できるものでもあるのです。

発明王エジソンが残したことば

私は二度や三度の失敗にはめげない。それがチャンスだから。挑戦失敗挑戦失敗挑戦する。諦めないこと。すると私にも運がだんだん近づいてくるのです。失敗は無駄ではなく私が成長するための肥やしでもあるのです。